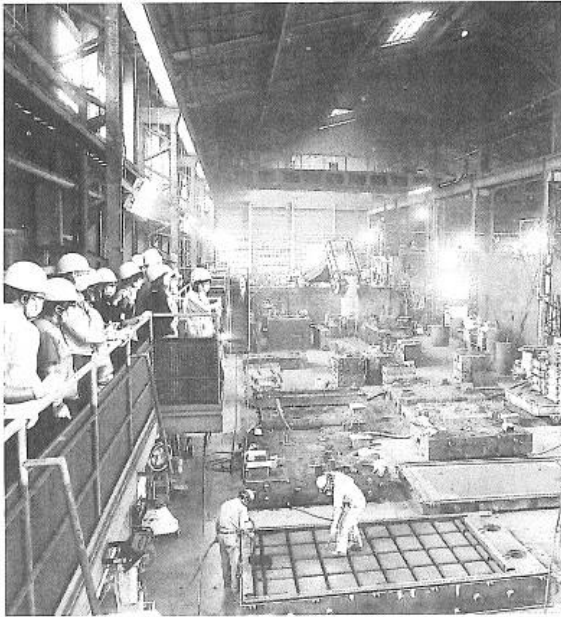
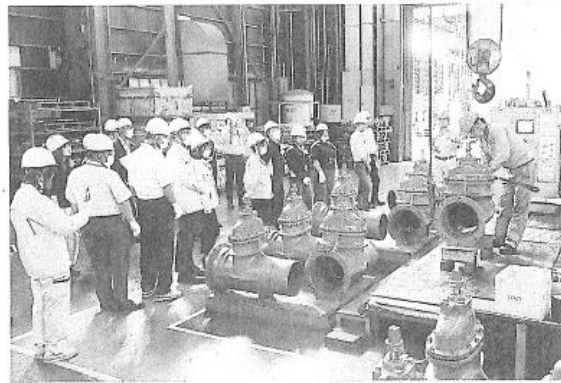


# 若手が現場技術を学ぶ

## 水コン協関東 前澤工業で研修会



鑄造設備(上)や機械加工設備(下)などを見学



全国上下水道コンサルタント協会関東支部は9月20日、会員向けの現場技術研修会を前澤工業の埼玉製造所(幸手市)で開催した。同社と前澤給装工業が講師を務め、バルブ類と給水装置に関する座学、工場見学、実技講習を実施。日常業務で

は触れることのない資機材に若手技術者が接する貴重な機会となった。前澤工業の海野隆輝パルプ営業部長、前澤給装工業の木村知史首都圏エリア統括部長のあいさつ

の後、研修は座学からスタート。給水装置の基礎知識として▽サドル付分水栓の穿孔部を保護す

る筒状の部品「防食コア」の種類を紹介。銅で形成される「インサートリング」が錆こぶによる閉塞防止を目的とするのに対し、銅製リングの外側にゴムを巻いた「密着コアR」は装着すると断面に密着して錆の発生自体を防ぐ効果があるとした。

ポリエチレン二層管用の継手については、同社がラインナップする3種類の差異を紹介した上で、それぞれの耐震性を強化した「S型」の構造を説明。管の内側に入る「インコア」部分などに工夫を凝らし、離脱防止性能を高めたという。そのほか、ボール止水栓に逆止弁を内蔵した複合製品「逆止止水栓S2型」なども紹介した。

工場見学では、鑄造から組立、塗装、試験検査まで、機械と人の手でバルブや消火栓が作られる流れを見て回った。実技では、参加者全員が手を動かし、PE層管やSUS管の切断・接続を体験。継手ごとの施工性の違いなどを実感した。前澤工業のキャラバンカーによるデモも行われ、透明な模擬管でキャピテーション(圧力変化で生じる気泡の衝撃)とそれを軽減する「バタフライ弁」「ジェットポート」の効果を見守った。



PE管の接続に挑戦